

## 基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン タキカワガクエン 学校法人 滝川学園									
フリガナ大学の名称	ナゴヤブンリダイガクダイガクイン 名古屋文理大学大学院(Nagoya Bunri University Graduate School)									
大学本部の位置	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地									
大学の目的	<p>本学は、教育基本法ならびに学校教育法に基づき、かつ自由と責任を重んずる立学の精神に則って、幅広く深い学識を涵養し、健康科学、情報科学に関する学術の理論及び応用を教授研究を行い、もって学識深く心身健全にして社会有為な人材の育成を目的とし、学術の振興と科学文化の増進に寄与し、ひいては国家の発展と世界平和の実現に貢献することを使命とする。</p>									
新設研究科等の目的	<p>「健康情報学」の発展を通して、地域の健康課題に情報科学の応用によって対応し、研究・教育能力を有する「健康を応用分野とする高度情報人材」を育成することを教育研究上の目的とする。</p>									
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 情報メディア学部情報メディア学科 健康生活学部健康栄養学科/フードビジネス学科
	健康情報学研究科 (Graduate School of Health Informatics) 健康情報学専攻 (Master Course of Health Informatics) 計	2 年	5 人	— 人	10 人	修士（健康情報学）	工学関係	令和7年4月 第1年次	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	名古屋文理大学短期大学部 食物栄養学科 栄養士専攻 [定員減] (△40) (令和6年4月届出予定)									
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数				
	健康情報学研究科 健康情報学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
		15科目	7科目	—科目	22科目					
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設分	健康情報学研究科 健康情報学専攻(修士課程)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	15 (8)		
	計	6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	— (—)		
既設分	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
	計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)		
合計		6 (6)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	— (—)		
職種		専属			その他			計		
事務職員		20 (20)			9 (9)			29 (29)		
技術職員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
図書館職員		2 (2)			1 (1)			3 (3)		
その他の職員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
指導補助者		0 (0)			0 (0)			0 (0)		
計		22 (22)			10 (10)			32 (32)		

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	<共用> 名古屋文理大学短期大学部 3,400㎡ <借用地> 5,070㎡ 令和27.3.31まで			
	校舎敷地	25,250.22㎡	13,532.00㎡	5,994.74㎡	44,776.96㎡				
	その他	9,952.46㎡	0㎡	1,650.58㎡	11,603.04㎡				
	合計	35,202.68㎡	13,532.00㎡	7,645.32㎡	56,380.00㎡				
校舎	専用	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	16,559.67㎡ (16,559.67㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	16,559.67㎡ (16,559.67㎡)				
講義室等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室		大学全体			
	20室	34室	25室	7室					
図書・設備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	電子図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	研究科等单位での特定不能なため、大学全体の数	
		健康情報学研究科 健康情報学専攻	79,289 [12,728] (79,214 [12,728])	185 [0] (185 [0])	235 [80] (235 [80])	65 [12] (65 [12])	7,826 (7,811)		0 (0)
	計	79,289 [12,728] (79,214 [12,728])	185 [0] (185 [0])	235 [80] (235 [80])	65 [12] (65 [12])	7,826 (7,811)	0 (0)		
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	各経費は研究科単位での算出不可能なため、学部との合計 図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コスト)を含む	
		教員1人当り研究費等		160千円	160千円	－千円	－千円		－千円
	共同研究費等		1,000千円	1,000千円	－千円	－千円	－千円		
	図書購入費	7,900千円	7,900千円	7,900千円	－千円	－千円	－千円		
	設備購入費	48,000千円	48,000千円	48,000千円	－千円	－千円	－千円		
学生1人当り納付金		第1年次 900千円	第2年次 700千円	第3年次 －千円	第4年次 －千円	第5年次 －千円			
学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学経常費補助金、資産運用収入、寄付金収入等								
既設大学等の状況	大学等の名称	名古屋文理大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	健康生活学部 健康栄養学科	年	人	年次 人	人	学士(栄養学)	0.88 0.93	平成15年度	愛知県稲沢市稲沢町前田365番地
	フードビジネス学科	4	80	3年次 2	324	学士(フードビジネス学)	0.82	平成17年度	
	情報メディア学部 情報メディア学科	4	70	－	280	学士(情報メディア学)	1.13 1.13	平成24年度	
	4	120	3年次 2	422	学士(情報メディア学)			令和6年度入学定員増(20人、3年次編入学2人)	
大学等の名称	名古屋文理大学短期大学部								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
食物栄養学科 栄養士専攻	年	人	年次 人	人	短期大学士(食物栄養学)	0.46 0.44	平成17年度	愛知県名古屋市西区笹塚町二丁目1番地	
製菓専攻	2	120	－	270	短期大学士(食物栄養学)	0.53	平成17年度		
	2	30	－	70	短期大学士(食物栄養学)			令和6年度入学定員減(△30人)	
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 共同教育課程の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設研究科等の目的」、「新設研究科等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「既設分」については、共同教育課程に係る数を除いたものとする。
- 私立の大学院の研究科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、及び「図書・設備」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「講義室等・新設研究科等の専任教員研究室」、「図書・設備」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(健康情報学研究科健康情報学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員 (助手を除く)
健康情報学分野	健康情報学	1前	/	2			○			5					1	オムニバス・共同（一部）
	健康データサイエンス	1後		2			○			1						
	健康情報産業論	2前		2			○			1						
	小計（3科目）	—		—	6			—			6	0	0	0		
健康科学分野	食生活と栄養	1前	/	2			○								1	オムニバス オムニバス
	地域医療と健康管理	1後		2			○								1	
	身体運動と健康	2前		2			○								2	
	健康心理学	2後		2			○								2	
小計（4科目）	—	—	8			—			0	0	0	0		6		
情報科学分野	プログラミングと応用	1前	/	2			○			1						オムニバス
	情報メディアとシステム技術	1後		2			○								2	
	人工知能特論	2前		2			○								1	
	情報教育特論	2後		2			○								1	
小計（4科目）	—	—	8			—			1	0	0	0		4		
総合分野	専門社会調査演習	1前	/	2				○							1	オムニバス オムニバス
	質的調査演習	1後		2				○							1	
	健康データ解析演習	2前		2					○						1	
	メディア文化と表現	1前		2				○		1	1					
	モデル化とシミュレーション	1後		2				○		1					1	
小計（5科目）	—	—	10			—			1	1	0	0		3		
研究指導科目	知的財産権と研究倫理	1前	/	2			○								1	
	科学論文作成法	2前		2			○			1						
	健康情報学演習1	1前		2				○		6	1					
	健康情報学演習2	1後		2				○		6	1					
	健康情報学演習3	2前		2				○		6	1					
	健康情報学演習4	2後		2				○		6	1					
小計（6科目）	—	—	12			—			6	1	0	0		1		
合計（22科目）		—	—	18	26		—			6	1	0	0		15	
学位又は称号		修士（健康情報学）		学位又は学科の分野				工学関係								
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等						
必修科目18単位、健康科学分野から選択必修4単位、情報科学分野から選択必修4単位、総合分野から選択必修4単位修得し、30単位以上修得すること。必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。										1学年の学期区分			2学期			
										1学期の授業期間			15週			
										1時限の授業の標準時間			90分			

教育課程等の概要																
(情報メディア学部情報メディア学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
基礎教育科目	哲学	1・2・3・4前			2		○							1		
	芸術	1・2・3・4後			2		○						1	2		
	心理学	1・2・3・4前			2		○							1		
	人間関係論	1・2・3・4後			2		○							1		
	現代日本史	1・2・3・4後			2		○							1		
	海外事情	1・2・3・4後			2		○							1		
	海外研修Ⅰ	1・2・3・4通			2		○							1		
	海外研修Ⅱ	1・2・3・4通			2		○							1		
	日本国憲法	1・2・3・4前			2		○							1		
	法学	1・2・3・4前			2		○							1		
	経済学	1・2・3・4後			2		○							1		
	経営学	1・2・3・4前			2		○							1		
	社会学	1・2・3・4後			2		○							1		
	自然科学Ⅰ	1・2・3・4前			2		○				1					
	自然科学Ⅱ	1・2・3・4後			2		○				1					
	統計学	1・2・3・4前			2		○				1					
	ブラクティカル・イングリッシュⅠ	1前		2			○								3	
	ブラクティカル・イングリッシュⅡ	1後		2			○								3	
	ブラクティカル・イングリッシュⅢ	2前			2		○								1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅣ	2後			2		○								1	
	フランス語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								1	
	フランス語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								1	
	中国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								1	
	中国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								1	
	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								1	
	韓国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								1	
	健康と栄養	1前		2			○								1	
	スポーツ科学	1・2・3・4後			2		○				1					
	スポーツⅠ	1・2・3・4前			1				○		1					
	スポーツⅡ	1・2・3・4後			1				○		1					
	アウトドアスポーツⅠ	1・2・3・4前			1				○		1				1	共同
	アウトドアスポーツⅡ	1・2・3・4後			1				○		1				1	共同
	地域の課題	1・2・3・4後			2		○				1				1	
	ボランティア活動	1・2・3・4通			2			○			1					
	情報リテラシー	1前	○		2		○				1			1		
	ICT基礎	1後	○		2		○				1					
	フレッシュマンセミナーⅠ	1前	○		1			○			5	5		2		
	フレッシュマンセミナーⅡ	1後	○		1			○			5	5		2		
	基礎演習Ⅰ	2前	○		2			○			8	2		1		
	基礎演習Ⅱ	2後	○		2			○			8	2		1		
	日本語力Ⅰ	2前			1		○				1				2	共同
	日本語力Ⅱ	2前			1		○				1				2	共同
	数的処理Ⅰ	1後			1		○								2	共同
	数的処理Ⅱ	1後			1		○								2	共同
	キャリアデザインⅠ	2後			1		○				4	1			3	オムニバス
	キャリアデザインⅡ	3前			1		○				3				2	オムニバス
小計 (46科目)		—	—	22	58	0	—	—	—	11	5	0	2	0	21	

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(情報メディア学部情報メディア学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
コース共通	プログラミング入門	1前	○	2			○						1				
	情報学概論	1前	○	2			○			1							
	情報メディア論	1前	○	2			○			1							
	プログラム演習Ⅰ	1後	○	2				○		1						1	
	ITマネジメント	1後		2				○								1	
	情報処理演習	1後			2				○		1						
	情報社会の倫理と職業	1後			2				○							1	
	情報管理	2前			2				○							1	
	ITストラテジ	2前		2					○							1	
	ソフトウェア基礎	2前			2				○		1						
	データサイエンス	2後			2				○		1						
	人工知能	3前			2				○		1						
	アート&デザイン演習	4前			2					○			1				
	基本情報技術	1・2・3・4通			2				○							1	
	情報メディア特別演習Ⅰ	1・2・3・4通			2					○		1		1		2	
	情報メディア特別演習Ⅱ	1・2・3・4通			2					○		1		1		2	
	インターンシップ	1・2・3・4通			2					○							
専門演習Ⅰ	3前	○	2					○		7	3		1				
専門演習Ⅱ	3後	○	2					○		7	3		1				
卒業演習Ⅰ	4前	○	2					○		7	3				2		
卒業演習Ⅱ	4後	○	2					○		7	3				2		
ITパスポート	1・2・3・4通			2				○							2		
小計 (22科目)	—	—	—	20	24	0	—	—	—	9	3	0	2	0	8		
専門教育科目	情報システム入門	1前	○	2				○									
	情報基礎理論	1後	○	2				○									
	プログラム演習Ⅱ	2前		2					○							1	
	アルゴリズムとデータ構造	2前	○	2				○									
	Webプログラミング	2前		2				○								1	
	メディア情報技術	2後	○	2				○			1			1			
	コンピュータネットワークⅠ	2後		2				○									
	ゲームプログラミング	2後		2				○			1						
	システム開発論	3前		2				○								1	
	データベース	3前		2				○			1						
	プログラム演習Ⅲ	3前		2					○							1	
	サウンドプログラミング	3前		2				○						1			
	コンピュータネットワークⅡ	3前		2				○			1						
プログラム演習Ⅳ	3後		2					○				1					
知識情報学	3後		2					○		1							
モバイル情報論	3後		2					○		1							
小計 (16科目)	—	—	—	16	16	0	—	—	—	4	1	0	2	0	4		
映像メディアアコース	デジタルアート入門	1前	○	2				○					1				
	アニメーション	1後		2				○								2	
	CG基礎	2前	○	2				○			1						
	映像制作演習Ⅰ	2前	○	2					○				1			1	
	映像史とアーカイブ	2前	○	2				○			1						
	色彩学	2前		2				○								1	
	映像制作演習Ⅱ	2後		2					○			1					
	CG演習	2後			2				○		1						
	写真技術	2後			2				○		1						
	映像加工技術	3前		2					○							1	
	ドキュメンタリー・シナリオ	3前		2					○								
	CM制作	3前		2					○		1						
	マルチメディア	3前		2					○				1			1	
メディアアート	3後		2					○				1					
ドキュメンタリー演習	3後		2					○				1					
放送・配信論	3後		2					○							1		
小計 (16科目)	—	—	—	16	16	0	—	—	—	3	3	0	1	0	5		

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(情報メディア学部情報メディア学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員			
専門教育科目 サウンド制作コース	デジタルサウンド入門	1前	○	2			○			1								
	MIDI制作演習Ⅰ	1後	○	2				○			1							
	音響実務	2前		2			○									1		
	MIDI制作演習Ⅱ	2前	○	2				○				1						
	音楽理論	2前		2			○										1	
	音響学	2後	○	2			○			1								
	聴能・音感演習	2後		2				○									1	
	サウンドクリエイション	2後		2			○											
	照明技術	2後			2		○				1						2	
	音響制作演習	3前			2			○									1	
	サウンドプログラミング	3前			2			○						1				
	マルチメディア	3前			2			○							1			
	サウンドプロダクション	3後			2			○									1	
	レコーディング演習	3後			2				○								1	
	舞台制作	3後			2			○									1	
	放送・配信論	3後			2			○									1	
小計 (16科目)	—	—	—	16	16	0	—	—	—	1	1	0	2	0	6			
専門教育科目 メディアデザインコース	メディアデザイン入門	1前	○	2			○											
	グラフィックデザイン	1後		2												1		
	メディアデザイン演習Ⅰ	2前	○	2				○				1						
	色彩学	2前		2			○										1	
	Webプログラミング	2前	○	2			○										1	
	CG基礎	2前			2		○			1								
	メディアデザイン演習Ⅱ	2後		2				○									1	
	Webデザイン	2後	○	2			○						1					
	CAD	2前			2		○			1								
	メディア文化論	2後			2		○										1	
	マルチメディア	3前			2		○						1				1	
	デジタルファブリケーション	3前			2		○											
	Web解析	3後			2		○			1								
ドキュメンタリー・シナリオ	3前			2		○					1							
暮らしとデザイン	3後			2		○										1		
ドキュメンタリー演習	3後			2			○											
小計 (16科目)	—	—	—	16	16	0	—	—	—	3	2	0	1	0	6			
専門教育科目小計 (86科目)	—	—	—	84	94	0	—	—	—	9	4	0	3	0	20			
合計 (132科目)	—	—	—	106	152	0	—	—	—	10	6	0	3	0	38			
学位又は称号	学士 (情報メディア学)			学位又は学科の分野			経済学関係、文学関係											
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等									
基礎教育科目：必修科目を含め36単位以上 専門教育科目：必修科目を含め36単位以上 基礎教育科目及び専門教育科目から52単位以上を修得し、124単位以上修得すること ○履修科目の登録の上限は半期24単位									1学年の学期区分			2学期						
									1学期の授業期間			15週						
									1時限の授業の標準時間			90分						

教育課程等の概要															
(健康生活学部健康栄養学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	哲学	1・2・3・4前			2		○							1	
	心理学	1・2・3・4前			2		○			1					
	人間関係論	1・2・3・4後			2		○			1					
	現代日本史	1・2・3・4後			2		○					1			
	日本語力Ⅰ	1前	○	1			○			1		1		1	共同
	日本語力Ⅱ	1前	○	1			○			1		1		1	共同
	海外事情	1・2・3・4後			2		○							1	
	海外研修Ⅰ	1・2・3・4通			2		○			1					
	海外研修Ⅱ	1・2・3・4通			2		○			1					
	法学	1・2・3・4前			2		○							1	
	日本国憲法	1・2・3・4前			2		○							1	
	経済学	1・2・3・4後			2		○							1	
	経営学	1・2・3・4前			2		○							1	
	社会学	1・2・3・4後			2		○							1	
	数的処理Ⅰ	1後	○	1			○			1		1			共同
	数的処理Ⅱ	1後	○	1			○			1		1			共同
	自然科学Ⅰ(生物学)	1前		2			○							1	
	自然科学Ⅱ(化学)	1後	○	2			○			1		1			共同
	基礎理化学実験	1前	○	1					○	1		1	1		共同
	生物特論	1後		2			○								
	統計学	1・2・3・4前			2		○							1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅠ	1前		2			○							1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅡ	1後		2			○							1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅢ	2前		2			○							1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅣ	2後		2			○							1	
	フランス語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○							1	
	フランス語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○							1	
	中国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○							1	
	中国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○							1	
	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		○							1	
	韓国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		○							1	
	スポーツ科学	1・2・3・4後			2		○							1	
	スポーツⅠ	1・2・3・4前			1				○					1	
	スポーツⅡ	1・2・3・4後			1				○					1	
	アウトドアスポーツⅠ	1・2・3・4前			1				○	1				1	共同
	アウトドアスポーツⅡ	1・2・3・4後			1				○	1				1	共同
	情報リテラシー	1前		2			○							1	
	ICT基礎	1後		2			○							1	
	地域の課題	1・2・3・4後			2		○							2	
	フレッシュマンセミナー(健康栄養)	1前	○	2					○	1		1			
	キャリアデザインⅠ	2後		1			○			1	1	2		4	オムニバス
	キャリアデザインⅡ	3前		1			○			1	1	1		2	オムニバス
	総合科目A	1後			2		○					1			
	総合科目B	1後			2		○								
小計(44科目)	—	—	—	21	56	0	—	—	3	1	0	4	1	19	
	公衆衛生学	2前		2			○							1	
	健康管理概論	1後	○	2			○		1						
	社会福祉概論	3後		2			○							1	
	看護・介護学概論	3前		2			○								
	解剖生理学Ⅰ	1後	○	2			○		2						
	解剖生理学Ⅱ	2前	○	2			○		1						
	解剖生理学実験Ⅰ	2前	○	1				○	1			1			
	解剖生理学実験Ⅱ	2後	○	1				○	1			1			
	生化学Ⅰ	2前	○	2			○		1						
	生化学Ⅱ	2後	○	2			○		1						
	生化学実験	2後		1				○	1			1		1	
	栄養生化学	3後	○	2			○		1						
	栄養生化学実験	2後	○	1				○	1			1			

**教 育 課 程 等 の 概 要**

(健康生活学部健康栄養学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員		
専門教育科目	運動生理学	3後			2		○			1							
	病気の成り立ちⅠ	2前	○	2			○			1							
	病気の成り立ちⅡ	2後	○	2			○			1							
	病気の成り立ちⅢ	3前	○	2			○			1							
	食品学Ⅰ	1後	○	2			○			1							
	食品学Ⅱ	2前	○	2			○			1							
	食品学実験Ⅰ	1後	○	1				○		1				1			
	食品学実験Ⅱ	2前	○	1				○		1				1			
	加工食品学	3前		2				○									1
	食品衛生学	1前		2				○									1
	食品衛生学実験	1後		1					○					1			1
	調理学	1前	○	2				○					1				
	調理学実験	2前	○	1					○		1				1		
	調理学実習Ⅰ	1前	○	1					○					1	1		
	調理学実習Ⅱ	1後	○	1					○					1	1		
	栄養学Ⅰ	1前	○	2				○			1						
	栄養学Ⅱ	1後	○	2				○			1						
	基礎栄養学実験	2前	○	1					○		1				1		
	ライフステージ栄養学Ⅰ	1後	○	2				○				1					
	ライフステージ栄養学Ⅱ	2前	○	2				○				1					
	ライフステージ栄養学Ⅲ	2後	○	2				○				1					
	スポーツ栄養論	4前			2			○									1
	ライフステージ栄養学実習	3前	○	1					○			1			1		
	栄養教育論Ⅰ	2後	○	2				○						1			
	栄養教育論Ⅱ	3前	○	2				○						1			
	栄養教育論Ⅲ	3後	○	2				○						1			
	栄養教育実習Ⅰ	3前	○	1					○					1	1		
	栄養教育実習Ⅱ	3後	○	1					○					1	1		
	カウンセリング実習	3後			1				○								
	病態栄養学Ⅰ	2後	○	2				○				1					
	病態栄養学Ⅱ	3前	○	2				○				1					
	臨床栄養管理論Ⅰ	3前	○	2				○						1			
	臨床栄養管理論Ⅱ	3後	○	2				○						1			
	臨床栄養管理実習Ⅰ	2後	○	1					○			1			1		
	臨床栄養管理実習Ⅱ	3前	○	1					○			1			1		
	栄養疫学	3前	○	2				○			1						
	公衆栄養学	2後	○	2				○			1						
	公衆栄養学実習	3後	○	1					○						1		
	給食経営管理学	2後	○		2			○				1					
	給食実務論	2前	○	2				○				1					
	フードシステム論	3後			2			○									1
	給食経営管理実習Ⅰ	2後	○	1					○			1				2	
	給食経営管理実習Ⅱ	3前			1				○			1				2	
	総合演習Ⅰ	4前			1			○			1						
	総合演習Ⅱ	4後			1			○			1						
	臨地実習Ⅰ	3後	○	1					○			1					
	臨地実習Ⅱ	3後			2				○			1					
	臨地実習Ⅲ	3後			1				○			1					
	卒業演習Ⅰ	4前	○	2				○			7	3			3		
	卒業演習Ⅱ	4後	○	2				○			7	3			3		
	小計 (63科目)		—	—	85	17	0	—	—	—	7	3	0	3	6	7	
	合計 (107科目)		—	—	106	73	0	—	—	—	8	3	0	5	6	24	
	学位又は称号	学士 (栄養学)			学位又は学科の分野			家政関係									
	卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等									
	基礎教育科目：必修科目を含め30単位以上 専門教育科目：必修科目を含め82単位以上 基礎教育科目及び専門教育科目から12単位以上を修得し、124単位以上修得すること ○履修科目の登録の上限は半期24単位							1 学年の学期区分					2 学期				
								1 学期の授業期間					15 週				
								1 時限の授業の標準時間					90 分				

教育課程等の概要																
(健康生活学部フードビジネス学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員 (助手を除く)
基礎 教育 科目	哲学	1・2・3・4前			2		○								1	
	芸術	1・2・3・4後			2		○				1				2	
	心理学	1・2・3・4前			2		○								1	
	人間関係論	1・2・3・4後			2		○								1	
	現代日本史	1・2・3・4後			2		○								1	
	海外事情	1・2・3・4後			2		○				1					
	海外研修Ⅰ	1・2・3・4通			2		○								1	
	海外研修Ⅱ	1・2・3・4通			2		○								1	
	日本国憲法	1・2・3・4前			2		○								1	
	法学	1・2・3・4前			2		○								1	
	経済学	1・2・3・4後			2		○								1	
	経営学	1・2・3・4前			2		○			1						
	社会学	1・2・3・4前			2		○						1			
	自然科学Ⅰ	1・2・3・4前			2		○								1	
	自然科学Ⅱ	1・2・3・4後			2		○								1	
	統計学	1・2・3・4前			2		○								1	
	ブラクティカル・イングリッシュⅠ	1前	○	2		2		○						1		
	ブラクティカル・イングリッシュⅡ	1後	○	2		2		○						1		
	ブラクティカル・イングリッシュⅢ	2前			2		2		○		1					
	ブラクティカル・イングリッシュⅣ	2後			2		2		○		1					
	フランス語Ⅰ	1・2・3・4前			2		2		○						1	
	フランス語Ⅱ	1・2・3・4後			2		2		○						1	
	中国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		2		○						1	
	中国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		2		○						1	
	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前			2		2		○						1	
	韓国語Ⅱ	1・2・3・4後			2		2		○						1	
	健康と栄養	1前		2		2		○							1	
	スポーツ科学	1・2・3・4後			2		2		○						1	
	スポーツⅠ	1・2・3・4前			1		1			○					1	
	スポーツⅡ	1・2・3・4後			1		1			○					1	
	アウトドアスポーツⅠ	1・2・3・4前			1		1			○					2	共同
	アウトドアスポーツⅡ	1・2・3・4後			1		1			○					2	共同
	地域の課題	1・2・3・4後			1		1		○					1	1	
	ボランティア活動	1・2・3・4通			2		2			○					1	
	情報リテラシー	1前		2		2			○						1	
	ICT基礎	1後		2		2			○						1	
	プレゼンテーション	2前			2		2		○					1		
	フレッシュマンセミナーⅠ	1前	○	1		1				○		1		5		共同
	フレッシュマンセミナーⅡ	1後	○	1		1				○		1		5		共同
	基礎演習Ⅰ	2前	○	2		2				○		1		4		
	基礎演習Ⅱ	2後	○	2		2				○		1		4		
	日本語力Ⅰ	1前		1		1		○							2	共同
	日本語力Ⅱ	1前		1		1		○							2	共同
	教的処理Ⅰ	1後		1		1		○							3	共同
	教的処理Ⅱ	1後		1		1		○							3	共同
	キャリアデザインⅠ	2後		1		1		○			2	1			5	オムニバス
	キャリアデザインⅡ	3前		1		1		○				1			4	オムニバス
小計(47科目)	—		—	22	60	0	—	—	—	3	3	0	5	0	21	
フードビジネス学入門	1前	○	2		2		○			4	3		5			オムニバス
簿記	1前	○	2		2		○			1						
フードサイエンス基礎	1前	○	2		2		○				1					
フードスペシャリスト論	1前	○	2		2		○			1						
デザイン基礎	1前	○	2		2		○				1					
社会調査入門	1前			2		2		○					1			
食品学Ⅰ	1後	○	2		2		○				1					
社会調査方法	1後			2		2		○					1			
食社会学	1後			2		2		○		1						

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(健康生活学部フードビジネス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
専門教育科目	商学	1後			2		○								1	
	企業会計	1後			2		○			1						
	ITマネジメント	1後			2		○			1						
	調理学	1後	○	2			○						1			
	調理学実習	1後			1				○				1	1		
	フードコーディネート論	1後			2		○						1			
	カメラ基礎	1後			2		○								1	
	食品学Ⅱ	2前	○	2			○				1					
	マーケティング論	2前			2		○				1					
	食品流通論	2前	○	2			○						1			
	食品表示制度	2前	○	2			○							1		
	フードコーディネート実習	2前			1				○		1			1	1	
	食品学実験	2前			1				○		1	1			1	
	パッケージデザイン	2前			2		○					1				
	ITストラテジ	2前			2		○				1					
	フードサービス論	2前			2		○					1				
	ホスピタリティ論	2前			2		○					1				
	食文化論	2前	○	2			○				1					
	食品安全学	2後	○	2			○				1					
	フードビジネスデータサイエンス	2後			2		○				1					
	栄養学	2後	○	2			○						1			
	カフェ実習	2後			1				○					2	1	
	食品貿易論	2後			2		○						1			
	商品開発	2後			2		○				1					
	ブランド論	2後			2		○					1				
	加工食品学	2後			2		○				1					
	ヒューマンリソースマネジメント	2後			2		○				1					
	リテールマーケティング	2後			2		○								1	
	カメラプロ	2後			2		○								1	
	質的調査法	3前			2		○									1
	消費行動論	3前			2		○									1
	食と環境	3前			2		○				1			1		
	AI基礎	3前			2		○				1					
	アグリビジネス	3前			2		○						1			
	製菓実習	3前			1				○					1	1	
	食とデザインⅠ	3前			2		○					1				
	食品官能評価	3前			2		○						1	1		
	フードビジネス・イングリッシュⅠ	3前			2		○				1					
	カフェ・レストランプロデュース	3前			2		○								1	
	フードプランニング	3前	○	2			○				1					
	食品衛生学	3後			2		○					1				
	食品衛生学実験	3後			1				○			1		1		
チェーンストアシステム	3後			2		○					1					
応用フードコーディネート論	3後			2		○						1				
応用フードコーディネート実習	3後			1				○					1	2		
食とデザインⅡ	3後			2		○					1					
食品産業論	3後			2		○						1				
暮らしとデザイン	3後			2		○					1					
社会調査実習	3後			2		○										
フードビジネス・イングリッシュⅡ	3後			2		○				1						
フードビジネス・イングリッシュⅢ	4前			2		○							1			
専門演習Ⅰ	3前	○	2					○		2	4		2			
専門演習Ⅱ	3後	○	2					○		2	4		2			
卒業演習Ⅰ	4前	○	2					○		3	3		1			
卒業演習Ⅱ	4後	○	2					○		3	3		1			
卒業研究	4後	○	2					○		3	3		1			
原価計算	1・2・3・4後			2		○				1						
フィールドスタディー	1・2・3・4後			2				○					1			

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(健康生活学部フードビジネス学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員		
	ITパスポート	1・2・3・4後			2		○									2	
	インターンシップ I	1・2・3・4通			2			○								1	
	インターンシップ II	1・2・3・4通			2			○								1	
	フードビジネス特別講義 I	1・2・3・4通			2		○									1	
	フードビジネス特別講義 II	1・2・3・4通			2		○			2							
	フードビジネス特別演習 I	1・2・3・4通			2			○									
	フードビジネス特別演習 II	1・2・3・4通			2			○									
	小計 (74科目)	—	—	38	103	0	—	—	—	4	4	0	5	2	13		
	合計 (121科目)	—	—	60	163	0	—	—	—	4	4	0	5	2	30		
学位又は称号		学士 (フードビジネス学)		学位又は学科の分野			家政関係										
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等									
基礎教育科目：必修科目を含め30単位以上 専門教育科目：必修科目を含め82単位以上 基礎教育科目及び専門教育科目から12単位以上を修得し、124単位以上修得すること ○履修科目の登録の上限は半期24単位								1 学年の学期区分					2学期				
								1 学期の授業期間					15週				
								1 時限の授業の標準時間					90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(健康情報学研究科健康情報学専攻)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
健康情報学分野	健康情報学		<p>AIをはじめとする現代の情報技術やサイエンスが健康観や身体像の形成にどのような影響を及ぼし、また医療や生活スタイルにどのような変化をもたらすかを示すとともに、現在および未来の健康生活の維持・増進に貢献しうる情報技術やサイエンスのあり方を具体例をもとに考察し、展望する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)                      (1 落合 洋文/3回)                      現在の情報技術やデータサイエンスが医療や健康生活の維持・増進にどのように役立っているかの展望、健康情報学の目的と可能性について                      (2 長谷川 聡/3回)                      健康情報の特性と伝達、AI・情報技術による健康管理・健康増進、人間の視覚情報と健康                      (3 周 欣欣/2回)                      情報技術の発達をもたらした医用画像技術、仮想現実技術VRや拡張現実技術ARについて                      (4 後藤 千穂/2回)                      AIの発展に伴う健康の観点から見たEBMの将来像と課題                      (5 近藤 徹弥/2回)                      フードインフォマティクス入門                      (10 吉田 友敬/2回)                      音の環境を健康という問題意識の下で分析する、音声の構音と知覚のしくみと構音障害                      (1 落合 洋文・2 長谷川 聡・3 周 欣欣・4 後藤 千穂・5 近藤 徹弥・10 吉田 友敬/1回) (共同)                      健康情報学の視点と課題について議論を行い考究する</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	健康データサイエンス		<p>データから情報や知識を抽出するための手法がデータサイエンスであり、健康に関するデータには個人情報が多く含まれ、その適切な取扱いが求められる等、他の分野のデータとは異なる性質を持っている。またEBM（根拠に基づく医療）に資することはもちろん、健康に関する情報発信には常に大きな責任が伴う。本科目では、健康と情報を取り巻く状況を理解し、データを適切に用いることによってイノベーションにつながる基本的事項を修得する。</p>	
	健康情報産業論		<p>健康情報産業論では健康情報関連企業の経営分析をおこなう。健康情報関連企業の有価証券報告書とは上場している会社に対して様々な情報を提供するために、作成・開示することが義務付けられている書類である。医薬品メーカー、ヘルスケアをはじめとした代表的な健康情報関連企業の有価証券報告書の分析を通じて、企業の特徴を学ぶとともに企業の経営分析の仕方を学ぶ。また、統合報告書についてもこの授業で取り扱う。</p>	
健康科学分野	食生活と栄養		<p>栄養素の消化や吸収、代謝について解説し、栄養素の生理機能を講述する。さらに、健康維持をするために、食生活のあり方から生活習慣病など栄養素の量的・質的バランスと、関連のある疾患の予防などについて栄養学見地から解説する。「不足の栄養学」から「過剰の栄養学」へと時代が変化する中、効率よく栄養素を摂取するこれまでの“バランスの良い食事”から、健康のための“バランスの良い食事”とは何かを考える。</p>	
	地域医療と健康管理		<p>超高齢社会における地域医療と健康管理の課題について学び、健康情報学による問題解決の可能性を考える。担当教員の老年医学の研究者および老年内科・認知症専門医として地域医療を行う経験から教授する。まず、ヒトの幼年期から高齢期までのライフステージごとの健康管理と医療について学び、「高齢者」とその特性の医学的・生物学的・心理的・社会的な理解を図る。次に、健康長寿を実現するための課題、加齢変化、認知症、死別と悲嘆、介護家族の心理について最新の研究成果を紹介し考察を深める。さらに、老年期の心理・社会的適応を目指す予防的な心理社会的援助の側面をとりあげ、超高齢化社会における地域医療の役割を考察する。</p>	

健康科学分野	身体運動と健康	<p>身体運動は健康の増進、体力づくりに必要な重要要素である栄養、運動、休養の一つであり、生活習慣病の予防や治療にも有効である。しかし、無理な運動、誤った運動は、逆に健康を損なうことにもなり、適切かつ適度な運動が求められる。そのためには、身体運動による身体への影響、効果を医科学的に理解し、個人にあった適切な身体運動が処方されなければならない。本講義では、運動が身体に及ぼす生理的機能や様々な運動の特性を正しく理解し、適切な運動処方の在り方について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 國友 宏渉/8回)</p> <p>運動不足の害について、身体運動に必要な骨格筋の構造と機能、身体を動かすための骨格筋収縮のメカニズム、筋収縮と骨の働き、身体運動と呼吸器系の関係、身体運動と循環器系の関係、運動とホメオスタシス、身体運動を支える栄養素の働きについて担当する。</p> <p>(14 関 豪/7回)</p> <p>トレーニングの科学、運動処方、生活習慣病と運動、高齢者と運動、こどもの体力と運動について担当する。</p>	オムニバス方式
	健康心理学	<p>健康心理学は、心理学的な立場から、心身の健康を高めることを目的としている。健康の維持と増進、疾病の予防と治療などについての原因と対処の心理学的な究明、及び健康教育やヘルスケアシステム、健康政策の構築などに対し、心理学から貢献する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (8 山田 ゆかり/8回)</p> <p>健康心理学の基礎理論、健康維持の生理学的メカニズム、ストレスの基礎、ストレスと健康、ストレスマネジメント、健康とパーソナリティ、健康心理カウンセリングの基本について担当する。</p> <p>(16 山本 ちか/7回)</p> <p>健康行動と疾病予防、ソーシャルサポートとヘルスケアシステム、健康心理アセスメント、健康心理学のデータ活用、健康教育の場と方法、健康教育と行動変容について担当する。</p>	オムニバス方式
情報科学分野	プログラミングと応用	<p>問題解決のためのプログラミング技術を確実なものとし、健康科学に関する研究、健康管理・健康増進に役立つアプリケーションの開発への応用力を身につける。C言語をはじめとする手続き型言語の理解を基礎に、データサイエンスやディープラーニング型のAIの活用にも応用できるPythonプログラミングも比較しながら学修し、応用力を身につける。生成AIを補助的に利用したプログラム開発（プロンプトエンジニアリング）も取り入れて、健康情報科学分野での応用のための実践的なプログラム開発力を身につける。</p>	
	情報メディアとシステム技術	<p>健康栄養分野へのITの普及・拡大にともなうデータの増加・多様化に対し、大規模データに潜むパターンを発見し、可視化し、さらには問題解決のための指針を得る機械学習、データマイニング、可視化、数値最適化等の応用的な情報処理技術が重要度を高めている。本講義では、機械学習の分野で発展したこれらの技術の理論を解説するとともにPythonプログラム開発環境Google Colaboratory上での機械学習システムの開発演習を取り入れ理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (12 田近 一郎/8回)</p> <p>機械学習システム、データマイニング、数値最適化、可視化技術について、大規模な機械学習システムの実装で必要となるプログラミング言語Pythonの重要項目、大規模な機械学習システムの実装で必要となる数学分野の重要項目について担当する。</p> <p>(18 森 博/7回)</p> <p>健康栄養情報を扱う機械学習システムを提案・実装するシステム開発演習をおこなう。</p>	オムニバス方式
	人工知能特論	<p>人工知能(Artificial Intelligence: AI)は広大な領域であり、論理、確率、連続数学、認知、推論、学習、および行為にまで、さらには、電子デバイスからロボットによる惑星探査にまで及んでいる。本講義では、AIの基礎知識と基礎技術について体系的に学ぶ。</p>	
	情報教育特論	<p>学習指導要領に基づき、小学校ではプログラミング教育、中学校では技術科において情報の技術を扱い、高等学校では必修科目情報Ⅰが施行されている。生涯教育としての情報科について、その背景や事例に関してディスカッションや演習を通して学習し、小学校や中学校、高等学校の総合学習や探究学習や教科横断した教育への適用可能性を検討する。また、情報教育について深く学ぶことによって情報科学の技能と啓蒙を通して社会における問題解決に積極的に取り組むための素養とする。</p>	

総合分野	専門社会調査演習	社会調査を実践的に企画・設計し、実施し、分析・集計をおこなうための実践的な知識と能力を習得する科目。調査方法論、調査倫理を踏まえ、調査方法の決定、調査企画と設計、仮説構成、調査票の作成、サンプリングないし対象者・フィールドの選定、実査、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング）、フィールドノート作成、コードブック作成）、比較的簡単な量的分析とグラフ作成、質的な分析、以上に基づく報告ペーパーの作成などに関する実践的な授業科目。専門社会調査士H科目に該当する。	
	質的調査演習	質的データの分析法（内容分析等）を習得するとともに、さまざまな質的調査法（聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフストーリー分析、会話分析など）に関する基本的理解を踏まえながら、そのあるものについての実践的な能力を習得する科目。専門社会調査士J科目に該当する。	
	健康データ解析演習	健康を評価する疫学研究のデザインや長所・短所を理解したうえで、量的調査データを解析するにあたり、統計学の基礎を確認しながら、多変量解析（重回帰分析、パス解析、分散分析、共分散分析、ロジット分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析、生存時間分析、共分散構造分析など）の手法の理解を深め、かつ、コンピュータを用いて実際に解析することのできる能力を養う科目である。統計調査士や専門統計調査士、専門社会調査士等の資格取得に役立つ科目である。	
	メディア文化と表現	マクラーハンに倣ってメディア＝人間の拡張と見ると、技術の発明はすべてメディアといえる。メディアはいったん産み落とされると人間から切り離されて独り歩きをはじめ。人間はそれが自分の拡張であることを忘れ、魅せられてしまう。これが「ナルキッソスの陶醉」で、ここにメディアあるいは技術の危うさがある。またメディアを熱いメディアと冷たいメディアに二分すると、メディア文化や表現の特質を理解しやすい。これらのキーワードを手がかりとしてメディアの本質を理解し、メディア文化の実像と表現の可能性を理解することが本講義の目標である。  (オムニバス方式／全15回) (1 落合 洋文／7回) マクラーハンのメディア論を発展させる形でメディアとしてのAIと人間の関係について講義をおこなう。人間の思考や行動を適応の次元に還元すると、人間はしたい・したくないの軸に置かれる。いっぽうAIは身体をもたないから適応の次元にはなく、（機械学習が）できる・できないの軸に置かれる。これら二つの軸によって人間とAIの関係を分析する。 (7 青山 太郎／8回) 近年のメディア現象において、どのような機械-身体への接合がなされており、そうした拡張＝変容によって、どのように人々の欲望が再編成され、情報社会の枠組みが差異化しているのか、そのダイナミズムを具体的事例に即して講義をおこなう。	オムニバス方式
	モデル化とシミュレーション	自然や社会は複雑であるから、科学では視点を決めて観察や測定や実験を行う。このとき観察される現象を、モデルという小さな箱、言い換えれば単純な枠組みのなかに置いて分析することにより、そのような現象を生じさせるメカニズムを理解することができる。またAIの利用が急速に進むこんにち、AIを正しく評価して利用するためにも、説明可能なモデルをもつことが重要である。このようなことを背景として、モデル化は、自然科学においても社会科学においても、必須の研究手段であり、その可能性と限界について理解を深めることが重要である。前半は科学の方法論の一般の特徴と、理論とモデルの関係、モデルの可能性と限界について理解する。後半はモデル化を実現するコンピュータシミュレーションの理論と実際を演習によって修得する。シミュレーションの手法として、セルオートマトン的なアプローチと、対象となる全系を支配する基本方程式に基づいたアプローチを比較し、両者の長所と短所を理解する。  (オムニバス方式／全15回) (1 落合 洋文／6回) 科学研究におけるモデルの役割、モデル化とシミュレーションの可能性と限界について講義をおこなう。また気候変動や感染拡大の簡単な数理モデルを作成し、モデル化という手法の本質について担当する。 (11 本多 一彦／9回) 演習形式の授業で、セルオートマトン的なアプローチの実例と基本方程式に基づいたアプローチの実例に触れながら、両者の特徴とメリット・デメリットについて講義をおこなう。	オムニバス方式

研究 指導 科目	知的財産権と研究倫理		今日の情報化の進展は、産業や人々の生活に大きな変革をもたらしたが、光と影の部分があり、健康情報学を考究する上で大きなかかわりがある。第1・2次産業では、主として有形の「もの」を扱ったが、第3次産業を超え、無形の「もの」を扱うことが根底にある。この「無形のもの」は、換言すれば「無体資産」あるいは「価値」として捉えられ、本講義では、これを取り扱う知的財産権や研究のあり方について検討する。講義前段では日本において知的財産が重視されるようになった経緯から、教育や研究とのかかわりを講述し、後段では、研究倫理に視野を拡大して研究論文執筆に向けた基礎的知識を修得する。	
	科学論文作成法		この講義は学術論文を執筆する意義と目的を学び、その具体的方法を身につけることを目標としている。なんのために論文を書くのか、何を論文に書くのか、どのように書くのかといった論文執筆の基本を学び、論文を執筆することは研究を遂行することと不可分であることを理解させる。	
	健康情報学演習 1		修士論文の作成に際し、各自の研究計画に係る先行研究の調査と検討を行う。またその結果を踏まえて各自の研究計画を具体化し、確定する。 以下に各教員のテーマを記載。 (1 落合 洋文) 身体と健康の観点からするAIの哲学 (2 長谷川 聡) 健康情報システムへのAI応用と高齢者特性の研究 (3 周 欣欣) 生体信号計測と可視化による健康増進アプリの開発 (4 後藤 千穂) 健康と食の関係および食事評価方法の検討 (5 近藤 徹弥) 食品の成分や物性の網羅的解析に基づく美味しさの予測と制御 (6 吉田 洋) 健康情報関連企業の経営分析とDX化の研究 (7 青山 太郎) 映像文化にみられる「健康」イメージの研究	
	健康情報学演習 2		修士論文の作成に向けて、研究計画に沿った研究を実施し、研究課題を掘り下げ、方法論の改良を行う。また（予備的な）研究結果を検討し、研究計画の（特に研究の進捗に関する）検討を行う。 以下に各教員のテーマを記載。 (1 落合 洋文) 身体と健康の観点からするAIの哲学 (2 長谷川 聡) 健康情報システムへのAI応用と高齢者特性の研究 (3 周 欣欣) 生体信号計測と可視化による健康増進アプリの開発 (4 後藤 千穂) 健康と食の関係および食事評価方法の検討 (5 近藤 徹弥) 食品の成分や物性の網羅的解析に基づく美味しさの予測と制御 (6 吉田 洋) 健康情報関連企業の経営分析とDX化の研究 (7 青山 太郎) 映像文化にみられる「健康」イメージの研究	

研究指導科目	健康情報学演習 3	/	<p>修士論文の作成に向けて、研究を実施する過程で明らかになる様々な問題に対処する方法を具体的に学ぶ。特に、研究結果や研究の進捗状況を踏まえて、研究計画の妥当性を確認し、必要に応じて方法論を見直したり、取り組むべき課題を見直したりする。自分の研究がある程度進展した段階で、研究計画の確認と見直しを通じて、研究の目的や方法や結果のもつ意味について理解を深めることが目標である。</p> <p>以下に各教員のテーマを記載。</p> <p>(1 落合 洋文) 身体と健康の観点からするAIの哲学</p> <p>(2 長谷川 聡) 健康情報システムへのAI応用と高齢者特性の研究</p> <p>(3 周 欣欣) 生体信号計測と可視化による健康増進アプリの開発</p> <p>(4 後藤 千穂) 健康と食の関係および食事評価方法の検討</p> <p>(5 近藤 徹弥) 食品の成分や物性の網羅的解析に基づく美味しさの予測と制御</p> <p>(6 吉田 洋) 健康情報関連企業の経営分析とDX化の研究</p> <p>(7 青山 太郎) 映像文化にみられる「健康」イメージの研究</p>	
	健康情報学演習 4	/	<p>修士論文の作成に向けて、研究成果のまとめかたと、研究発表の方法について、各自の研究成果を踏まえて具体的に学ぶ。</p> <p>以下に各教員のテーマを記載。</p> <p>(1 落合 洋文) 身体と健康の観点からするAIの哲学</p> <p>(2 長谷川 聡) 健康情報システムへのAI応用と高齢者特性の研究</p> <p>(3 周 欣欣) 生体信号計測と可視化による健康増進アプリの開発</p> <p>(4 後藤 千穂) 健康と食の関係および食事評価方法の検討</p> <p>(5 近藤 徹弥) 食品の成分や物性の網羅的解析に基づく美味しさの予測と制御</p> <p>(6 吉田 洋) 健康情報関連企業の経営分析とDX化の研究</p> <p>(7 青山 太郎) 映像文化にみられる「健康」イメージの研究</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人滝川学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由		
<b>名古屋文理大学</b> 健康生活学部 健康栄養学科 フードビジネス学科  情報メディア学部 情報メディア学科				<b>名古屋文理大学</b> 健康生活学部 健康栄養学科 フードビジネス学科  情報メディア学部 情報メディア学科						
		3年次				3年次				
	80	2	324		80	2	324			
	70	-	280		70	-	280			
	120	2	484		120	2	484			
<hr/>				<hr/>						
		3年次				3年次				
計	270	4	1,088	計	270	4	1,088			
<hr/>				<hr/>						
<b>名古屋文理大学大学院</b> 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (M)				<b>名古屋文理大学大学院</b> 健康情報学研究科 健康情報学専攻 (M)				大学院の設置 (認可申請)		
					5	-	10			
				計	5	-	10			
<hr/>				<hr/>						
<b>名古屋文理大学短期大学部</b> 食物栄養学科 栄養士専攻 製菓専攻				<b>名古屋文理大学短期大学部</b> 食物栄養学科 栄養士専攻 製菓専攻				定員変更(△40)		
	120	-	240		80	-	160			
	30	-	60		30	-	60			
	150	-	300	計	110	-	220			